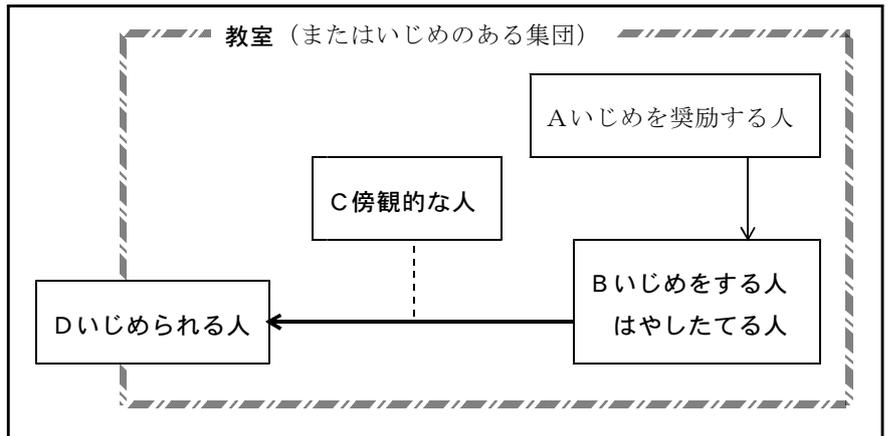


相手を思う気持ちを大切に

<11月は人権教育月間です>

平成25年度、「いじめ防止対策推進法」が施行され、子どもたちがいじめを行うことがないように指導することや、いじめから適切に保護すること等が、大人の責務として定められています。本校では11月に3週間、人権教育月間を位置づけ、いじめ・差別のない安心して毎日を送ることができる学校づくりを目指しています。

さて、いじめについてその仕組みを考えてみたいと思います。いじめは「いじめる側」と「いじめられる側」の2つによって形成されているように思われがちですが他にもいくつか関わりが見られます。右図をご覧ください。「Bいじめをする人・はやしたてる人」が「Dいじめられる人」を直接ひどいめにあわせていますが、その様子を見聞きしていても何もしない、「C傍観的な人」の存在がい



じめを助長しています。更に、あまり話題になりませんが、何気ない言葉や仕草でいじめを助長する「Aいじめを奨励する人」が存在する場合があります。驚くことに、これが周囲の大人である場合があります。これらを見ると、いじめは当事者だけの問題ではないことがお分かりいただけると思います。悲しくつらい思いをしている人のことを考えると、一日も早く解決することが必要です。それには、「相手の気持ちになって考える」「相手を思いやる」ということができなくてはなりません。そうでないと、いつまでたっても「いじめられる人」の悲しみ、つらさなどの「心の痛み」に気づくことができないのです。

問題が発覚し、話を聞いたり経緯を確認したりすると、「Dいじめられる人」は、これまで言えなかった悲しくてつらい思いをようやく話そうとします。「Bいじめをする人・はやしたてる人」は自分がしたいじめを正当化し、もっともらしい理由をつけます。中には知らぬ存ぜぬで通してしまう場合もあります。「C傍観的な人」は、人数的にはここが一番多いのですが、仕返しが怖い、関わりたくない等の理由で中立の立場を貫こうとします。どうしたら解決につながるかを話題にしてクラスで話し合いをすると、だいたい以下の3つの意見にまとまってきます。

- ア：いじめられるようなことをするからいじめられる。そこを直せば誰もいじめない。
「いじめられる人」が直す努力をすべきだ。そうすればいじめはなくなっていくと思う。
- イ：「いじている人」が一番悪い。でも「いじめられる人」も直すべきところを直す。
「いじめる人」も「いじめられる人」もお互いに直していけばいじめはなくなっていくと思う。
- ウ：「いじめられる人」に対して「〇〇なやつだ」と最初から思い込んでいたり、決めつけていたりする。周りのみんなが「いじめられる人」に対する見方を直せばいじめはなくなっていくと思う。

話し合いを通して友だちの考えを聞いたり自分の意見をまとめたりしながら、徐々に考えが深まっています。これを読んでいただいている皆さんは、どの意見に近いでしょうか。

11月に入って、友だちのいいところ、すごいなと思うところをお互いに出し合って、お互いを認め合える学習をしてきています。先日の参観日でも人権にかかわる授業を参観していただきました。校長講話では、一人一人が幸せになる権利を守るには、一人ではなくみんなで力を合わせていくもの、との話をしました。時間をかけながら、友だちと考え合ったり、じっくり自分自身と向き合ったりして学習を深め、安心して生活できる環境をみんなで創り上げたいと思います。